

37歳

文久4年(1864)1月5日

愛する安姫へ 父より

春嶽と勇^{いさ}の婚礼から11年後、2人の間に初めて授かった子が安姫でした。文久3年10月から京都に滞在していた春嶽は、国元の安姫(4歳)が「不快」と聞くと、12月17日に伏見稻荷で祈祷させ、御守札や玩具、菓子などを福井に送ります。また京で越年した春嶽は、御年玉がわりに手毬や反物代を福井に送るなど、安姫をかわいがっていた様子が伝わります。



左:文久4年1月の松平春嶽(37歳), 中:中根雪江(57歳), 右:前年12月の春嶽(36歳) 画:みなせ @ambujam10



みなせ
@ambujam10



途中国元の娘・安姫様が体調悪くなって回復したお知らせを受けて「お手あそび&お菓子料」と伏見稻荷のお札を送り、それから一ヶ月も経たないのに手毬二つプレゼント。もーお財布ゆるゆるお父さん

Note

- ・靱負…ゆきえ。中根雪江の通称。
- ・おこづかい…「なまぐさ料」(養生のための魚肉代)を送ったと「御側向頭取御用日記」にみえる。
- ・体調悪くなって回復したお知らせ…「京華日録」には「今般不快、すらすら全快のため伏見稻荷へ祈祷申し付く」とあるため、この時点では安姫の症状は回復には至っていないか。



2021年8月24日